

## ふるさと子ども交流館

**金田委員** これまでの経緯と取り組みは。

**当局** 川下保育園として建設、その後、平成13年度からふるさと子ども交流館として利用してきた。自然体験塾などを開催しオープン当時は1700人程度の利用実績があった。

**金田委員** 解体にあたっての地域合意は。

**当局** 地元の下山区とは解体の方向で話をさせていたが、施設利用の相談もあるので、今後決定していきたい。



老朽化が進む交流館

## 衛生費

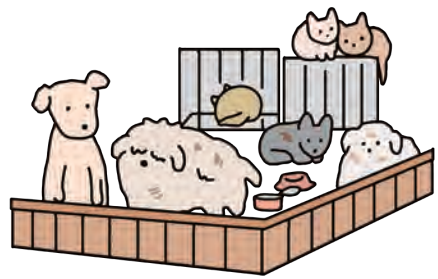
### 多頭飼育崩壊の防止

**横山委員** どのような取り組みか。

**当局** ペットは基本的に飼い主が不妊手術等を行うもので、その必要性について情報提供や周知啓発を行う。飼い主だけで解決が困難な場合は対策協議会で支援の検討を行うほか、譲渡会や一時預かりへの支援を実施したい。

**佐々木委員** 多頭飼育に関し今後さまざまに相談が多く寄せられると思うが、専門窓口を設ける考えはあるか。

**当局** 相談窓口は暮らし環境係になるが、専門的な知識が必要になる。県での研修会などで職員の認識を深め、保健所や愛護団体などからアドバイスをもらい対応していきたい。



## 農林水産業費

### 地域計画

**金田委員** 地域計画策定にかかる会議費等の予算計上が無いが、計上する考えはないか。

**町長** 会議費などの予算化は考えていないが、話し合いの結果、地域の思いを詰め込んだ計画については、町として多いに応援していく。

### 森林境界明確化のモデル地区とは

**佐々木委員** 森林境界の筆界想定図を基にした明確化作業、6年度に実施するモデル地区とはどこか。

**当局** 航空レーザー測量の成果を基に筆界想定図を作り、地権者などに確認していただきながら、図上での境界明確化を行う。鮎貝地区をモデル地区として実施する。

### 鳥獣対策器材の増設

**笹原委員** 鳥獣被害の増加で実施隊の負担軽減をはかる器材の拡充は考えているか。

**当局** 罾にかかった場合に手元で受信できる装置が2セット10機ある。鳥獣対策協議会で増設を検討して、実施隊の負担軽減に努めたい。

## 商工費

### 起業人派遣事業、求める分野は

**佐々木委員** 地域活性化起業人派遣事業、どのような分野での人材派遣を求めるのか。

**当局** 首都圏の民間企業から社員を招き、専門知識を地域活性化に生かす事業。ふるさと森林公園の再整備に向けて、町民の保養や健康づくり、都市間交流の拠点として、施設の機能やソフト面での知識を活用したい。

### ふるさと納税、新たな返礼品は

**竹田委員** 主要な返礼品であったビールが認められなくなった。今後の新たな目玉となる返礼品の状況はどうか。

**当局** 寄附単価をある程度上げたい。町内宿



航空レーザー測量のイメージ